
苫小牧市美術博物館 年報

第9号 (令和3年度)

苫小牧市美術博物館
Tomakomai City Museum

苫小牧市美術博物館 年報9号 目次

1	事業報告	1
	(1) 展示事業	1
	(2) 教育普及事業	4
	(3) 資料の収集・保存	7
	(4) 調査・研究活動	9
	(5) 広報・CS向上	10
	(6) 市民協働	10
	(7) 埋蔵文化財の保護	11
	(8) 展示室貸出事業	11
	(9) 大会への参加事業・研修	11
	(10) 市史編纂事業	11
2	入館者	12
3	令和3年度決算	13
	(1) 歳入	13
	(2) 歳出	13
4	令和4年度予算	14
	(1) 歳入	14
	(2) 歳出	14
5	施設の概要	15
	(1) 沿革	15
	(2) 施設見取り図・概要	17
	(3) 組織	18

はじめに

苫小牧市美術博物館《あみゅー》は、「樽前山麓と勇払原野の自然と文化」を主軸とする博物館事業に加え、「市民に開かれ」「子どもたちの感性を育む」「文化芸術活動の拠点として」を基本理念とする美術館事業を実施し、各種特別展、郷土に根ざした作家を紹介する企画展のほか、中庭を利用した新進気鋭の作家による屋外展示などを展開してまいりました。

博物館時代から実施してきた郷土の自然・考古・歴史に関連する展覧会についても学芸員の調査研究の公表の場として継続するほか、各種教育普及事業も実施しております。

このように多岐にわたり事業を展開できたのも、企業・各館園及び研究機関、各種団体・個人の皆様のお力添えのおかげと、この場をお借りして厚くお礼申しあげます。

本号では、2021年度の事業内容を記載しております。特別展では文化庁等が主催の巡回展「発掘された日本列島2021」を北海道では14年ぶりに開催し、近年全国で注目された出土品の展示のほか、独自企画として国指定史跡の静川遺跡を紹介しました。企画展は100年前に苫小牧で発生した大火を紹介した「コイノボリ大火と苫小牧消防史」、ラムサール条約登録から30年を記念した「ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来」、胆振日高の多彩な現代美術を紹介した「NITTAN ART FILE 4:土地の記憶～結晶化する表象」を開催。また、「苫小牧ゆかりの書蔵出し展」や「鳥のいる風景」などの収蔵品展、中庭展示など、歴史、考古、自然、美術の各分野を融合した地域色豊かな事業を実施しました。

最後になりますが、当館の運営及び各種展示・教育普及事業の実施にご協力を賜りました皆様、展示監視活動に携わっていただきました登録ボランティア及び美術館友の会事業部の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年10月

苫小牧市美術博物館
館長 藤原 誠

1 事業報告

※全て講師名は敬称略、所属等は令和3年4月現在

(1) 展示事業

①特別展

○発掘された日本列島2021

令和3年7月31日(土)～9月12日(日) (観覧者数：1,428名)

主催：文化庁／苫小牧市美術博物館／北海道新聞社／全国新聞社事業協議会

協力：全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会／全国埋蔵文化財法人連絡協議会／公益財団法人元興寺文化財研究所／共同通信社／恵庭市教育委員会／千歳市教育委員会

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式会社苫小牧民報社／株式会社三星／全国史跡整備市町村協議会

文化庁などが主催の巡回展「発掘された日本列島」展を開催した。北海道では14年ぶり、苫小牧市・胆振管内としては初めての開催となった。巡回展のほか静川遺跡を中心とした環壕遺構を紹介した地域展示を通じて、全国で行われている発掘調査の成果だけでなく苫小牧地方の考古学に関する興味関心を深める機会となった。

(関連行事)

8月1日(日)・8月7日(土)・8月22日(日) スライドトーク (全3回・参加者82名)

7月31日(土) 講演会「世界文化遺産と北の縄文遺跡群」

講師：長沼孝 (公益財団法人北海道埋蔵文化財センター 理事長)

(参加者41名)

②企画展

○コイノボリ大火と苫小牧消防史

令和3年4月29日(木・祝)～7月4日(日) (観覧者数：1,764名)

協力：いとう履物店／国立国会図書館／真宗寺／第一洋食店／苫小牧市消防本部／苫小牧市立中央図書館／苫小牧市立苫小牧東小学校／北海道立図書館／まるぜん呉服店

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式会社苫小牧民報社／株式会社三星

大正10(1921)年5月1日に苫小牧町(現在の苫小牧市大町3条通り)で発生した火災「コイノボリ大火」に関する歴史や、明治時代から現在に至るまでの苫小牧の消防制度の変遷について紹介した。災害への向き合い方、苫小牧のまちの発展の歴史への理解を深める機会となった。

(関連行事)

5月2日(日)・7月4日(日) 展示解説会 (全2回・参加者45名)

7月3日(土) こども消防体験 講師：苫小牧市消防本部 (参加者50名)

○ラムサール条約登録30年 ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来

令和3年10月9日(土)～12月12日(日) (観覧者数：4,651名)

協力：(公財)日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ／北海道大学植物園・博物館／北海道博物館／CISEネットワーク

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式会社苫小牧民報社／株式会社三星／北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部

ウトナイ湖がラムサール条約に登録されてから30年を迎え、改めてその自然環境の魅力や変化などを紹介した。当館が収蔵する100点以上の標本を展示したほか、渡り鳥のルートを投影した球体スクリーンや、足踏み式展示など体験型の展示を取り入れ、年代を問わずに楽しめる展示となった。

(関連行事)

10月9日(土)、11月6日(土)、12月5日(日) 担当学芸員の展示解説会 (全3回・参加者47名)

11月20日(土) 博物館が伝えるハーバリウム～樹脂封入標本づくり～

講師：吉沼利晃 (苫小牧総合経済高等学校 教諭) (参加者12名)

○NITTAN ART FILE 4：土地の記憶～結晶化する表象

令和4年1月15日(土)～3月13日(日) (観覧者数：1,543名)

協力：NPO法人樽前artyプラス

後援：苫小牧信用金庫／北海道新聞苫小牧支社／株式会社苫小牧民報社／株式会社三星
／北海道新幹線×nittan地域戦略会議

胆振・日高地方ゆかりの現代美術を紹介する展覧会シリーズの第4回。本展では、「土地の記憶」をテーマに、固有の場所にまつわる歴史やそこに蓄積されていく記憶を源泉とする表象—感覚的に思い浮かべられる知覚や心象、観念など—を、美術家、版画家、写真家、構造家という4人の現代作家たちの芸術表現によりご覧いただく機会を設けた。博物資料を活用した作品展示なども行うなど、複合施設ならではの取り組みについても実施した。

(関連行事)

1月15日(日) アーティストトーク

講師：こだまみわこ、是恒さくら、佐藤祐治、山脇克彦 聞き手：藤沢レオ
(参加者数：33名)

2月20日(日) 担当学芸員によるギャラリートーク (参加者数：8名)

③収蔵品展

○苫小牧ゆかりの書 蔵出し展

令和3年4月29日(木・祝)～7月4日(日) (観覧者数：1,764名)

前身の苫小牧市博物館時代を含め、当館では初めての書をテーマとした展覧会として収蔵作品から精選して展示をおこなった。「現代書道の父」と称された比田井天来をはじめ、東宮御所で書道御進講を務めた桑原翠邦および近代詩文書の世界を開拓した金子鷗亭ら北海道を代表する書家、その系譜を継ぐ二階堂北翠や毛利壽海ら苫小牧ゆかりの書家を紹介した。

(関連行事)

5月1日(土) 解説スライドトーク

講師：大澤尚洋 (苫小牧書道連盟 理事) (参加者数：37名)

○鳥のいる風景

令和3年10月9日(土)～12月12日(日) (観覧者数：4,651名)

今回の収蔵品展では、同時開催の企画展が「鳥」を多く扱っていることに連動し、「鳥」をテーマに11点を展示した。勇払原野や樽前山麓の豊かな自然に恵まれた苫小牧では、日常的にさまざまな鳥たちの姿を目にすることができ、収蔵作品にも個性豊かな鳥たちの姿が登場する。本展では「鳥」をテーマに11点を選出し、「鳥のいる風景」をお楽しみいただく機会とした。

④中庭展示

中庭展示スペースを活用した、気鋭の現代作家による立体作品展示シリーズ

○Vol.16 武田浩志 TAKEDAsystem vol.10

令和3年4月29日(木・祝)～9月12日(日) (観覧者数：3,726名)

協力：KIKU woodworks株式会社

絵画と立体の境界を越えた創作活動が続ける美術家・武田浩志(1978～)。本展では、シリーズ「TAKEDAsystem」(2002～)の最新作を紹介した。ネオンカラーの描線がもたらす流動性、そして、透明メディウムの層が織りなすテクスチャーなど、純粋な造形性によって見る者を魅了する抽象絵画とあわせて、中庭空間にしつらえられた、武田特有のセンスが凝縮する小屋のたたずまいをご覧くださいと共、期間限定でその内部に入る機会を設け好評を博した。

(関連行事)

中庭特別鑑賞会(全15回・参加者184名)

○Vol.17 澁谷俊彦 雪待の庭「薄雪」/Snow Pallet 16

令和3年10月5日(土)～令和4年3月13日(日) (観覧者数：6,504名)

冬や雪、自然や大地などから着想を得た作品を制作する美術家・澁谷俊彦(1960～)。本展では、太陽光や積雪量などの自然現象を援用するシリーズ「Snow Pallet」(2011～)の最新作を紹介した。白い鉄製のオブジェの裏面に塗布された蛍光塗料が、光の反射の作用により鮮やかな色彩を表出させる、軽やかで洗練された澁谷の作品世界をご覧ください。

(2) 教育普及事業

①通年プログラム（登録制の各種プログラム）

○美術博物館大学講座（対象：18歳以上 登録者数：78名）

苫小牧や胆振・日高、北海道に関する自然、芸術、歴史の各分野の講師による講演を実施した。

日 時	内 容	講 師 名	参加者
R3. 8.21	「北海道の木彫り熊」	大谷 茂之 (八雲町郷土資料館・ 木彫り熊資料館 学芸員)	60名
R3. 9.11	「北海道のアートプロジェクト と彫刻公園」	久米 淳之 (北海道立近代美術館 学芸統括官)	中止
R3.10.23	「北海道のゲンゴロウ ーその種類と生息環境ー」	堀 繁久 (北海道博物館 学芸部長・学芸主幹)	55名
R3.11.13	「近世北海道における感染症対 策～天然痘を事例に～」	永野 正宏 (国立アイヌ民族博物館 文化庁企画調整課調査官)	56名
R3.12. 4	「漂着物から海の世界を覗く」	志賀 健司 (いしかり砂丘の風資料館 学芸主査)	61名
R4. 1.29	「樺太、製紙工場、そして苫小牧」	小杉 宇海 (当館学芸員)	49名
R4. 2.19	「熊を祀る～縄文からアイヌまで」	岩波 連 (当館学芸員)	45名
R4. 3. 5	「現代の書（概要）と 本来の書とは」	大澤 尚洋 (苫小牧書道連盟 理事)	58名

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた入学式及び第2講は中止とした。

○子ども広報部「びとこま」（共催：NPO法人樽前artyプラス 登録者数：15名）

小中学生の子ども記者を募集し、展覧会の取材、撮影・記事作成を指導し、広報紙「びとこま」を発行した。

令和3年5月～令和4年2月(年8回実施)子ども広報紙発行：2回 総参加者数：109名

○古文書解読講座（対象：高校生～大人 登録者数 初級編：21名 中級編：16名）

古文書解読にあたり必要なくずし字解読の基礎や古文書から歴史を読み解く講座を開催した。

(初級編) 10月2日(土)、3日(日)、31日(日)、11月28日(日)、12月12日(日)

(中級編) 6月26日(土)・27日(日)

総参加者数：81名 講師：佐藤 麻莉 (当館学芸員)

②体験プログラム（一般申込型普及事業）

○美術博物館祭2020 7月31日(土)～8月1日(日)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。

○ミュージアムラボ（対象：小学生～一般）

体験を通して自然、歴史や美術に親しむ行事を実施した。

日 時	内 容	対応学芸員	参加者
R3.11.23	和綴じ本をつくろう	小杉 宇海	11名
R3.12.25	版画の技法であそぼう	立石絵梨子	16名
R4. 1. 8	書初め	沖津かな	18名
R4. 2.11	あんぎん編みコースターをつくろう	岩波 連	17名

○無料観覧日

参加型イベントを実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止および規模を縮小して実施した。

日 時	内 容	実施内容	参加者
R3. 5. 5	ゴーゴーミュージアム	イベントは中止し観覧のみとした	231名
R3.11. 3	あみゅー秋のサンクスデー	イベントは中止し観覧のみとした	416名

○歴史見学会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。

○自然観察会「カササギ調査説明会」

苫小牧市に生息するカササギの営巣数を調べるため、市民から調査員を募ってカササギの生態や調査の方法を解説した。

4月17日(土) 対象：苫小牧市民 参加者：20名

○遺跡報告会

令和3年度に行った遺跡調査の概要を報告した。

3月19日(土) 対象：一般 参加者：5名

③学校連携プログラム

○郷土学習

小学校社会科副読本「のびゆく苫小牧」と連動した、展示や資料を活用した学習を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から内容を一部変更した上で実施。

9月～11月 対象：市内小学校23校3・4年生 受講児童：1,526名（ほか教職員76名）

○教員のための博物館の日（共催：国立科学博物館、日本博物館協会 協力：苫小牧市教育研究所）

当館の機能や資源を知ってもらうことを目的に、日頃館を利用することの少ない教職員に授業で館を活用するための情報を研修という形で提供した。

8月6日 対象：苫小牧市及び周辺地域の教員等 参加教員：48名

○アウトリーチ事業 みゅーじあむ in スクール

苫小牧出身の画家・加藤広貴氏を講師に迎え、対話による美術の鑑賞活動を市内小中学校で行った。

10月19日（清水小学校 6年生35名）

11月12日（樽前小学校 5・6年生 9名）

12月 2日（明野小学校 6年生58名）受講者：合計102名

○総合学習・職場体験

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校より中止の申出があった。

○社会科自由研究発表会（主催：苫小牧市教育研究会社会科部会）

主催者の判断により、今年度以降の事業が中止となった。

○学芸員実習の受入

学芸員資格取得のための実務実習を実施した。

8月19日(木)～28日(土)のうち8日間 実習生：1名 受入先：北海道教育大学岩見沢校

④その他の教育普及事業

○出前講座

日 時	団 体	演 題	対応学芸員	参加者
R3.7.17	住吉コミュニティセンター	苫小牧の歴史	小杉 宇海	7名
R3.8.18	長生大学	苫小牧の美術	細矢 久人	62名
R3.10.17	苫小牧川柳社	苫小牧の歴史	佐藤 麻莉	16名
R3.11.7	住吉コミュニティセンター	苫小牧の鳥	江崎 逸郎	7名
R3.12.14	明野中学校 2年生	苫小牧の歴史	佐藤 麻莉	76名

○講師派遣・総合学習

日 時	団 体	演 題	対応学芸員	参加者
R3.10.26	日新小学校 5年生	アイヌ文化について	佐藤 麻莉	67名
R3.11.6	文化財発見ツアー	苫小牧の大昔の暮らし	岩波 連	30名
R3.11.10	若草小学校 2年生	施設見学・職業紹介	小杉 宇海	9名
R3.11.12	北星小学校 3年1組・2組	昔の道具と暮らし	佐藤 麻莉	56名
R4.3.12	苫小牧市美術館友の会	絵画鑑賞会	立石絵梨子	6名

○苫小牧市アイヌ施策推進事業

日 時	内 容	講 師 名	参加者
R4.2.12	アットゥシ織の世界	柴田 幸宏（二風谷民芸組合）	29名
R4.3.6	発掘調査からわかるアイヌ文化	永谷 幸人（伊達市教育委員会 学芸員）	33名

(3) 資料の収集・保存

①資料の増加状況（過去5年分）

年度	考 古	歴 史	民 族	自 然	芸 術	合 計
H29	(0) 45,204	(25) 49,652	(0) 1,805	(9) 42,375	(161) 1,518	(195) 140,554
H30	(0) 45,204	(6) 49,658	(0) 1,805	(0) 42,375	(1) 1,519	(7) 140,561
R 元	(0) 45,204	(2) 49,660	(0) 1,805	(0) 42,375	(4) 1,523	(6) 140,567
R 2	(0) 45,204	(2) 49,662	(0) 1,805	(91) 42,466	(0) 1,523	(93) 140,660
R 3	(0) 45,204	(47) 49,709	(0) 1,805	(0) 42,466	(202) 1,725	(249) 140,909

※（ ）内は、各年度における資料の増加点数

②寄贈資料

月日	資 料 名	数 量	分 類
R3. 5.20	はがき	44点	歴 史
R3. 6.15	画家・笠井誠一氏の版画作品等北海道ゆかりの絵画作品	14点	芸 術
R3. 6.15	画家・松田環氏の油彩作品	3点	芸 術
R3. 9.25	版画家・浅野武彦氏の作品等郷土ゆかりの版画作品	178点	芸 術
R3. 9.29	版画家・手島圭三郎氏の作品	1点	芸 術
R3.11.28	版画家・川上澄生氏の作品	1点	芸 術
R3.11.28	画家・池本良三氏の作品	1点	芸 術
R4. 1.20	置時計	2点	歴 史
R4. 2.10	陶器酒樽	1点	歴 史
R4. 2.16	画家・山田啓貴氏の絵画	1点	芸 術
R4. 2.16	画家・福井正治氏の絵画	1点	芸 術

③利用状況

資料調査

依 頼 主	資 料	利用目的(方法)	調査日
個 人	郷土関連の音源	昭和期の大衆園芸および郷土文化研究のため（レコードの視聴）	8月22日
個 人	竹製イクパスイ	卒業論文執筆のための調査（閲覧・撮影）	9月1日
早稲田大学先史考古学研究所	美沢1遺跡・柏原5遺跡資料	周堤墓形成期における墓石、玉類の原産地研究のための調査（閲覧・撮影）	10月15日
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	柏原4遺跡ほか出土土器ほか	是恒縄文館令和4年度特別展に係る資料調査（観察記録・撮影）	令和4年1月～12月

館外貸出

貸出先	資料	利用目的	貸出期間
国立アイヌ民族博物館	アイヌ民族資料4点	国立アイヌ民族博物館基本展示室に展示	令和3年7月2日～9月30日
北海道胆振総合振興局	柏原18遺跡土偶・柏原5遺跡ヒスイの飾玉の写真、静川遺跡の航空写真	「北の縄文パネル展」で使用	令和3年7月下旬～令和4年3月
北海道博物館	鳥類標本および昆虫標本15点	北海道博物館第7回特別展「あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～」で展示	令和3年7月10日～9月20日
国立アイヌ民族博物館	当館外観写真	国立アイヌ民族博物館 第3回エントランスロビー展示で使用	令和3年9月18日～11月22日
苫小牧郷土文化研究会	松浦武四郎「夕張日誌」	苫小牧郷土文化研究会古文書サークル部会にて、テキストとして使用	令和4年1月～12月

館外貸出以外の貸出（データ提供、複写、模写等）

貸出先	資料	利用目的	貸出日
個人	丸木製軸工場写真	紀要「アジア文化研究47号」（国際基督教大学発行）所収論文へ掲載	データ提供
北海道新聞社出版センター	静川遺跡 写真1点	写真集「世界遺産 北の縄文」に収録	データ提供
岩手県立博物館	ニナルカ遺跡墓、ニナルカ遺跡 コハク出土状況、クマ装飾付き土器、擦文土器の画像4点	岩手県立博物館 令和3年度テーマ展「教科書と違う岩手の歴史ー岩手の弥生～古墳時代ー」のパネル、広報媒体への掲載	令和3年11月23日～令和4年2月6日
有限会社 三猿舎	マンモスの模型画像	「史跡・出来事典」（講談社発行）書籍、WEB版等に掲載	データ提供
株式会社ふらんとマガジン社	アイヌ丸木舟画像	「AINU MUSEUM TRIP」インターネットサイトおよび雑誌掲載	データ提供
NHKエデュケーションショナル	テタラペ（草皮衣）画像	ドキュメンタリー番組「Barakan Discover2021 New Generation of Ainu」で紹介	データ提供
苫小牧市環境生活課	美術博物館外観など画像3点	苫小牧市生物多様性推進事業における市民周知用パンフレットに掲載	データ提供
NHKエデュケーションショナル	衣服（木綿）画像	ドキュメンタリー番組「ジャパノロジー+アイヌ」で紹介	データ提供
オフィスK a i	イクパスイ画像2点	書籍「もっと知りたいアイヌの美術」（株式会社東京美術発行）に掲載	データ提供

貸出先	資料	利用目的	貸出日
株式会社 童夢	タマサイ（首飾り）画像	「江戸時代大百科」（ポプラ社発行）に掲載	データ提供
株式会社チューエツ	マンモスの親子画像	富山県中学校 第2学年社会科学力調査問題に使用	データ提供
一般社団法人日本野球機構 記録データ管理部	「1960年 巨人対大洋戦」の試合前写真	日本野球機構公式サイト内「在籍全審判員名簿」コラムに掲載	データ提供
N H K エデュケーショナル	テタラペ（草皮衣）画像	ドキュメンタリー番組「Barakan Discover2021 New Generation of Ainu（日本語版）」で紹介	データ提供
北海道新聞 Hot Media 調査企画部	「コイノボリ大火」の写真	「北海道新聞 週刊まなぶん」内の特集面「見てみて北海道」に使用	データ提供
三内丸山遺跡センター	苫小牧市静川22遺跡発掘調査報告書 第97図版 A1号土杭墓遺物出土状況	発掘調査速報展「さんまる速報展！ 2021」展示に使用	複写
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館	柏原5遺跡 注口土器報告書第5-51図276	令和4年度八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館催し物のご案内で使用	データ提供

(4) 調査・研究活動

学芸員がテーマごとに資料収集・調査研究を実施した。

氏名	分野	研究テーマ
細矢 久人	美術	苫小牧および北日本における近現代美術
江崎 逸郎	自然史	樽前山及び勇払原野一帯の生物相とその変遷
岩波 連	考古	動物考古学
沖津かな	書	苫小牧および北海道の書道史
立石絵梨子	美術	日本近現代美術、美術館教育
佐藤 麻莉	歴史	日本近世史、北方史
小杉 宇海	歴史	日本近世史、昭和史

(5) 広報・CS向上

①印刷物の発行

逐次刊行物

年報第8号、紀要第7号、美術博物館だより第9号を発行した。

その他印刷物

年間スケジュール1件、各種展示会の広報印刷物、企画展「ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来」展示報告書、「NITTAN ART FILE 4：土地の記憶～結晶化する表象」記録集を作成した。

②各展覧会におけるポスター・チラシの配布

特別展・各企画展においてポスター・チラシを作成し、市内外に郵送もしくは手持ちで配布した。展覧会ごとに配布先・配布枚数を調整し、効率的に周知できるように工夫した。

③美術博物館公式HPの運営

常に最新の情報が掲載されるように展覧会・行事ごとに随時更新をおこない、情報発信に努めた。

④美術博物館公式Facebookの運営

現在は週2～3回ほど更新し、展覧会や行事の案内のほか、常設展示や展覧会の見どころも写真を添えて紹介し、当館に親しみを持ってもらえるような広報を目指している。(フォロワー数：440人)

⑤美術博物館公式Twitterの運営

Facebookと同様の内容で更新しているが、利用者層がそれぞれ異なるため、より幅広く即時性のある情報を伝達することができた。(フォロワー数：950人)

⑥苫小牧市公式LINEの活用

苫小牧市民の登録者が多いLINEを利用し、展覧会情報等を発信している。

⑦ブログ「学芸員の生きもの情報ブログ」を開設

2021年7月より、自然史事業の内容や苫小牧で見られる季節の生物を紹介するブログを開設した。

(6) 市民協働

①市内の歴史、美術等に関連のある団体を当館の登録団体として支援、協働を行った。

- ・苫小牧市博物館友の会の会議に出席し、助言等を行った。
- ・苫小牧市美術館友の会の事務局会議の会場提供、会議の出席等を行った。
- ・郷土文化研究会の会議会場の提供、市民公開講座への協力、会議の出席等を行った。
- ・苫小牧縄文会の総会や講演会場の提供を行った。

②ボランティア研修事業（登録者数：44名、総参加者数：110名）

特別展、企画展のレクチャー、バスレクなど研修会を5回実施した。

4月28日(水)、7月30日(金)、10月8日(金)、1月14日(金)、3月13日(日)

(7) 埋蔵文化財の保護

市内の開発工事（各種開発確認・開発区域詳細）に伴う遺跡の有無を確認するための調査
遺跡パトロールの実施

文化財保護法に基づく事前協議・調査・立会 18件

遺跡の所在に関する問合せの対応 92件

市内遺跡発掘調査等事業の実施

覚生地区落し穴発掘調査 8月12日(木)～9月8日(水)

苫東柏原地区試掘調査 9月28日(火)～10月30日(土)

植苗地区試掘調査 11月16日(火)～11月17日(水)

有珠川7遺跡試掘調査 2月24日(木)～2月25日(金)

(8) 展示室貸出事業

苫小牧美術協会 春季展 3月25日(金)～3月27日(日) 来館者：460名

(9) 大会への参加事業・研修

北海道博物館大会 7月15日(木)、16日(金) 白老町 参加(武田、佐藤、小杉)

日胆地区博物館協議会 総会 書面会議(武田)

研修会 中止 ※新型コロナウイルス感染拡大のため

北海道美術館学芸員研究協議会 中止 ※新型コロナウイルス感染拡大のため

全国美術館総会 不参加 ※新型コロナウイルス感染拡大のため

全国美術館会議 学芸員研修会 3月10日(金) オンライン参加(細矢、立石)

全国博物館大会 11月17日(水)、18日(木) 札幌市 参加(武田)

アイヌ文化ネットワークオンライン研修会 11月25日(木) オンライン参加(小杉)

オンライン学芸員研修(初級編) 1月17日(月)、24日(月)、31日(月) オンライン参加(江崎)

(10) 市史編纂事業

事務局会議、ワーキンググループ会議を実施した。担当(兼務):武田正哉、佐藤麻莉、小杉宇海

2 入館者

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人	大人	1,364	932	458	1,140	1,850	169	1,281	1,500	804	712	831	1,533	12,556
	高大	10	25	11	13	34	0	21	10	16	14	20	32	206
	小中	232	204	57	244	576	15	201	232	112	79	103	231	2,286
	幼児	99	87	41	108	219	0	112	156	50	45	90	171	1,178
	小計	1,687	1,248	567	1,505	2,679	184	1,434	1,898	982	850	1,044	1,967	16,226
団体	大人	0	0	2	0	11	0	134	61	20	0	0	0	228
	高大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小中	0	0	0	0	0	0	740	953	195	0	0	0	1,888
	幼児	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
	小計	0	0	22	0	11	0	874	1,014	215	0	0	0	2,116
合計	1,687	1,248	589	1,505	2,690	184	2,489	2,912	1,197	850	1,044	1,967	18,362	

※特別展、教育普及事業参加者等を含む。

※展覧会関連事業、教育普及事業参加者は個人に含む。ただし、郷土学習は団体参加者に含む。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5/17(月)～6/20(日)、8/28(土)～9/30(木)の期間、臨時休館を実施した。

3 令和3年度決算

(1) 歳入

区 分	予算現額	決算額	説 明
使用料（入館料）	3,003,000	1,831,560	常設・企画展観覧料 1,366,160 特別展観覧料 465,400
使 用 料 （行政財産使用料）	280,000	47,914	展示室・設備使用料 11,250 自動販売機電気料金 36,664
受 講 料	130,000	93,600	美術博物館大学講座 93,600
社 会 教 育 費 金 国 庫 補 助 金	1,270,000	1,400,000	遺跡発掘調査事業費 1,400,000
ア イ ヌ 政 策 推 進 交 付 金	862,000	809,355	アイヌ文化関連展示整備事業 809,355
市民文化芸術振興 基 金 繰 入 金	4,499,000	4,000,000	市民文化芸術振興基金繰入金 4,000,000
雑 入	0	5,000	図録販売収入 5,000
合 計	10,024,000	8,157,429	

(2) 歳出

区 分	予算現額	決算額	説 明
報 酬	153,000	91,500	美術博物館協議会委員経費 95,200
報 償 費	603,000	268,000	美術博物館管理運営経費 28 500 573
旅 費	1,379,000	801,160	{ <ul style="list-style-type: none"> 燃料費 4,272,769 電気・上下水道料 3,999,305 管理運営委託料 16,073,306 その他管理運営費 4,155,193
需 用 費	16,822,660	16,215,608	
役 務 費	1,250,000	1,192,700	
委 託 料	28,301,000	27,143,856	
使 用 料 及 び 賃 借 料	789,340	479,923	{ <ul style="list-style-type: none"> 燃料費 188,925 電気・上下水道料 406,705 管理運営委託料 1,866,765 その他管理運営費 493,792
原 材 料 費	28,000	7,998	
備 品 購 入 費	330,000	296,780	遺跡発掘調査等事業費 1,714,344 美術博物館企画展示事業費 3,621,548 美術博物館特別展事業費 5,416,950
負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	76,000	75,000	美術博物館祭事業費 0 アイヌ文化関連展示整備事業費 1,010,640
合 計	49,732,000	46,572,525	

4 令和4年度予算

(1) 歳入

区 分	当初予算額	説 明	
使 用 料	3,003,000	観覧料 特別展観覧料	1,753,000 1,250,000
行政財産使用料	103,000	展示室・設備使用料	103,000
	35,000	自動販売機電気使用料	35,000
受 講 料	130,000	美術博物館大学講座受講料	130,000
社 会 教 育 費 金 国 庫 補 助 金	1,300,000	遺跡発掘調査等事業費	1,300,000
ア イ ヌ 政 策 金 推 進 交 付 金	862,000	アイヌ文化関連展示整備事業費	862,000
雑 入	165,000	企画展図録販売収入	165,000
市民文化芸術振興 基金繰入金	4,499,000	市民文化芸術振興基金繰入金	4,499,000
一 般 財 源	41,968,000		
合 計	52,065,000		

(2) 歳出

区 分	当初予算額	説 明		
報 酬	153,000	美術博物館協議会委員経費	160,000	
報 償 費	425,000	美術博物館管理運営経費	30,888,000	
旅 費	1,331,000	{ 燃料費 5,278,000 電気・上下水道料 4,605,000 管理運営委託料 16,519,000 その他管理運営費 4,486,000		
需 用 費	18,953,000			
役 務 費	1,079,000		美術博物館活動及び調査研究経費	3,905,000
委 託 料	28,565,000		勇武津資料館管理運営経費	3,257,000
使 用 料 及 び 借 料	1,196,000	{ 燃料費 216,000 電気・上下水道料 440,000 管理運営委託料 2,039,000 その他管理運営費 562,000		
原 材 料 費	6,000			
備 品 購 入 費	273,000		遺跡発掘調査等事業費	2,601,000
負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	84,000		美術博物館企画展示事業費	4,650,000
		美術博物館特別展事業費	5,027,000	
		美術博物館祭事業費	499,000	
		アイヌ文化関連展示整備事業費	1,078,000	
合 計	52,065,000			

5 施設の概要

(1) 沿革

- 昭和35年 6月 市立苫小牧図書館に郷土博物室設置
- 45年 1月 苫小牧市青少年センターを建設し、博物展示部門・科学展示部門設置
- 48年 11月 苫小牧百年を記念して、郷土博物館建設方針決定
- 12月 郷土博物館資料収集調査委員会設置
- 56年 11月 苫小牧市博物館基本構想(案)がまとまり、建設準備委員会を設置
- 57年 1月 建設準備委員会で埋蔵文化財調査センターの併設を審議
- 58年 3月 博物館建設の基本計画決定
- 11月 建築工事着工
- 59年 11月 展示工事着工
- 60年 11月 開館、第1回特別展「苫小牧地方の有形文化財」開催
- 61年 3月 第1回博物館協議会開催
- 62年 7月 博物館・埋蔵文化財調査センター、昭和62年度建築業協会賞受賞
- 63年 7月 常陸宮両殿下来館、博物館友の会設立
- 9月 第12回特別展「陶磁の東西交流展」開催
- 平成元年 6月 入館者10万人達成
- 9月 高円宮両殿下来館、郷土学習開始
- 2年 8月 開館5周年記念第18回特別展「紙の文化史展」開催
- 3年 7月 第30回北海道博物館大会開催
- 4年 9月 入館者20万人達成
- 5年 2月 第25回特別展「マオリ文化展」開催
- 6年 12月 平成6年度北海道博物館活動交流推進会議開催
- 7年 7月 開館10周年記念特別展「大昔の苫小牧～よみがえる古代人のくらし～」開催
- 8年 3月 「二つの島のかげはし～苫小牧市博物館所蔵品展～」をニュージーランドネーピア市ホークスベイ博物館にて開催。同月、入館者30万人達成
- 9年 5月 日胆地区博物館等連絡協議会設立総会開催
- 10年 5月 とまこまい市制50周年記念「シャガールとパリの画家たち展」開催
- 7月 とまこまい市制50周年記念「出光美術館所蔵ジョルジュ・ルオー展」開催
- 11年 8月 第43回特別展「日光東照宮宝物展～姉妹都市日光の横顔～」開催
- 12年 8月 第44回特別展「八王子千人同心と幕末の勇武津」開催
- 13年 9月 21世紀記念事業「名品にみる武家の美と心～文化人井伊直弼の世界」開催
- 14年 8月 苫小牧市民文化芸術振興条例制定記念事業、トヨタ自動車北海道(株)創業10周年記念事業「印象派とその歩み展～感じたままに 瞬間を描く～」開催
- 15年 7月 第47回特別展「川上澄生の世界～南蛮文化・文明開化・苫小牧～」開催
- 16年 4月 トヨタ自動車北海道(株)「東京藝術大学に集った画家たち展」開催
- 7月 第48回特別展「砂田友治の画業～人間賛歌の造形をめざして～」
- 17年 8月 開館20周年記念特別展「のぞいてみよう恐竜時代～クビナガリュウが見た北海道～」開催
- 平成18年 1月 浩宮皇太子殿下下来館
- 7月 第50回特別展「昭和のくらし～我が家にテレビが来たころ～」開催

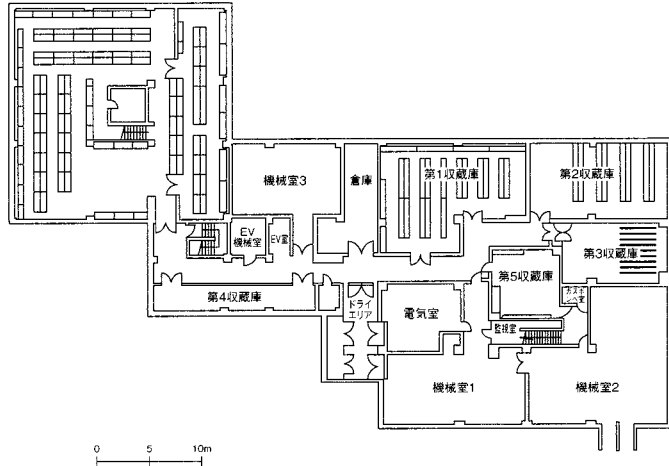
- 9月 出光美術館所蔵「中国・滋州窯～なごみと味わい～」開催
- 19年 7月 第51回特別展「マッチ・ワンダーランド～歴史・デザイン・喫茶店文化～」開催
- 9月 トヨタ自動車北海道(株)創業15周年記念「エコール・ド・パリ～パリを愛した画家たち展」開催
- 20年 2月 入館者60万人達成
- 9月 市制60周年記念出光美術館所蔵「板谷波山展」開催
- 21年 7月 第53回特別展「縄文美の極み～亀ヶ岡文化～」開催
- 22年 8月 開館25周年記念特別展「紙をつくる 紙でつくる」開催
- 23年 7月 ウトナイ湖ラムサール条約登録記念特別展「鳥の世界」開催
- 24年 7月 トヨタ自動車北海道(株)創業20周年記念
「光から夢をたどって～印象派からエコール・ド・パリまで」開催
- 24年 8月 改修工事のため休館
- 25年 4月 博物部門常設展再オープン
- 25年 7月 苫小牧市美術博物館開館、開館記念特別展「出光美術館所蔵美術展」開催
- 26年 7月 開館1周年記念特別展「青森県立美術館コレクション展～アオモリ・アヴァンギャルド：堆積する創造のエネルギー」開催
- 27年 9月 特別展「花ひらく近代洋画の世界」開催
- 28年 7月 開館3周年記念特別展「Art and Air 一空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語」開催
- 29年 7月 特別展「トヨタ自動車北海道株式会社25周年事業 水から未来を紡いで 20世紀美術の創造」開催
- 9月 特別展「柳原良平の海・船・港」開催
- 30年 7月 特別展「歌川広重 二つの東海道五拾三次 保永堂版と丸清版」開催
- 令和元年 7月 特別展「第一洋食店の100年と苫小牧」開催
- 令和2年 7月 特別展「生誕100年 | ロボットと芸術～越境するヒューマノイド」開催
- 令和3年 7月 特別展「発掘された日本列島2021」開催

(2) 施設見取り図・概要

構造 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上2階
 建築面積 2,111.24㎡ 延床面積 5,188.82㎡

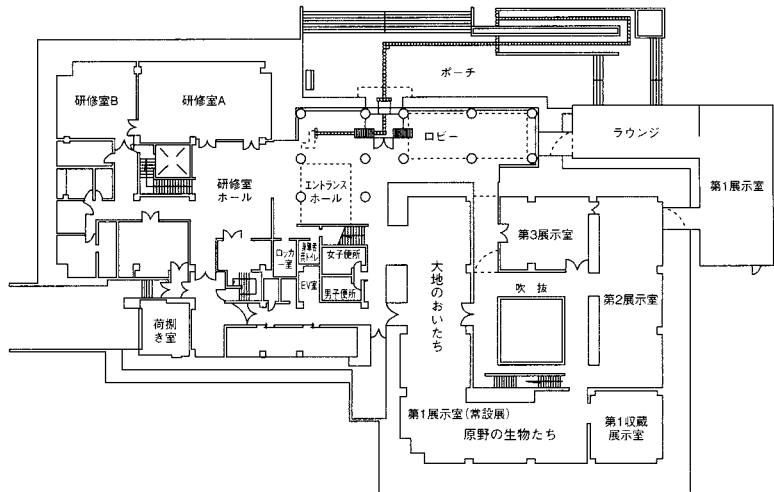
地下

室名	面積(㎡)
倉庫	45.16
収蔵庫(第1~3)	303.72
第5収蔵庫	45.16
その他	1064.14
(小計)	1458.18



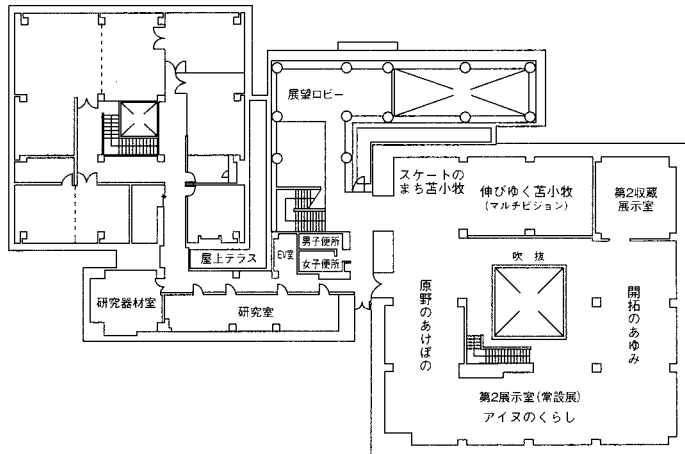
1階

室名	面積(㎡)
常設展示室	349.44
第1収蔵展示室	75.51
第1展示室	150.51
第2展示室	176.54
第3展示室	82.26
中庭展示(屋外)	(45.16)
ラウンジ	80.42
研修室ホール	86.39
研修室A	93.7
研修室B	70.8
事務室	39.1
荷捌き室	71.8
その他	832.58
(小計)	2,109.05



2階

室名	面積(㎡)
常設展	623.68
第2収蔵展示室	74.82
マルチビジョン室	106.69
研究室	71.49
研究機材室	45.43
展望ロビー	75.25
その他	624.23
(小計)	1,621.59



(3) 組 織 (令和3年4月1日現在)

①美術博物館協議会委員

会 長 揚妻 直樹 (北海道大学苦小牧研究林 林長)
副会長 林 廣志 (苦小牧写真連盟 会長)
委 員 居島恵美子 (苦小牧市美術館友の会 事務局次長)
奥本 政一 (苦小牧市立植苗中学校 校長)
金田 正弘 (苦小牧市博物館友の会 副会長)
菊地 綾子 (フリーランスライター (市民公募))
鈴木亜沙美 (苦小牧市PTA連合会 副会長)
橋爪 好伸 (苦小牧郷土文化研究会 理事)
山形 知憲 (苦小牧市立拓進小学校 校長)
山田 利一 (北洋大学 教授 (市民公募))

②職 員

館 長 (歴史)	武田 正哉
主 査 (再任用)	遠藤 久雄
主 査 (美術)	細矢 久人
主任学芸員 (自然史)	江崎 逸郎
学芸員 (書)	沖津かんな
学芸員 (美術)	立石絵梨子
学芸員 (考古)	岩波 連
学芸員 (歴史)	佐藤 麻莉
学芸員 (歴史)	小杉 宇海
主 事 (再任用)	吉田 由恵
受 付 (会計年度任用職員)	長谷川一枝
	吉村みどり
	阿部 幸子

設備管理・清掃 (委託)

苫小牧市美術博物館 年報

第9号（令和3年度）

（ 苫小牧市博物館 館報 通算20号 ）
（ 苫小牧市博物館 年報 通算37号 ）

発行日 令和4年10月
編集・発行 苫小牧市美術博物館
〒053-0011
北海道苫小牧市末広町3丁目9番7号
TEL 0144(35)2550
FAX 0144(34)0408
印刷 (株)とまみん印刷センター